

授業科目 言語・コミュニケーション発達論

特別支援教育講座 花熊 暁

受講者数 22名

1. 授業の目的

本授業は、特別支援教育教員養成課程3回生を対象とした授業で、言語・コミュニケーションに障害のある子どもの教育支援を考える上で必要な、言語・コミュニケーションの発達とその障害に関する基礎知識の習得を目標としている。

2. 授業の方法

本授業のシラバスには5つの到達目標を挙げているが、今年度の授業では、到達目標の(2)に該当する「自己の日常経験に基づいて授業内容を理解する」ことに重点を置き、グループ討議を多く取り入れて、言語・コミュニケーションの発達とその障害について自己の日常経験と照らし合わせながら学ぶ授業方法を取り入れた。

全15回の授業の中で、言語の特性に関する討議1回と自閉症児の行動特徴の解釈に関する討議4回の計5回のグループ討議の時間を設け、受講者に討議結果を発表させた後、各討議テーマが言語・コミュニケーションの発達の中でどのような意味を持つのかを教員が説明するようにした。

3. 受講者について

本授業の受講者は、特別支援教育教員養成課程の学生22名である。

4. 授業評価アンケートとその結果

授業評価は、ア) 授業の内容に関するもの：3項目、イ) 教員の説明のしかたや配布資料に関するもの：2項目、ウ) グループ討議に関するもの：2項目、エ) 授業への感想と改善意見：自由記述、の計8項目からなる授業評価アンケートを授業終了時に実施した。

(ア) 授業内容について

項目1「授業内容に興味・感心が持てたか」については、“非常に”と答えた者7名、“かなり”と答えた者15名であった。

項目2「授業で学んだ内容は今後子どもを指導する時に役立つものだったか」については、“非

常に”9名、“かなり”13名であった。

項目3「教員養成実地指導講師による講義(15コマ中の1コマ)に興味・関心が持てたか」については、“非常に”6名、“かなり”13名、“どちらともいえない”2名であった。

(イ) 教員の説明のしかたや配布資料について

項目4「教員の説明のしかたやプレゼンテーションのしかたは適切か」については、15名が“非常に適切”、7名が“かなり適切”と回答した。また、項目5「授業で配布した資料の内容や量は適切だったか」については、“非常に”が10名、“かなり”が9名、“どちらともいえない”が3名であった。

(ウ) グループ討議について

項目6「討議内容」については、22名全員が“討議内容は適切だった”と回答した。また、項目7「討議回数」については、20名が“回数は適切”と回答し、残り2名は“もっと回数を増やすべきだ”としていた。

(エ) 授業への感想と改善意見

多くの受講者が「グループ討議は、自分たちで考えることができ、非常に良かった」と記していた。講義で用いたパワーポイントについては、「丁寧で分かりやすいが、カラフル過ぎて重要なポイントがつかみにくい」という指摘があった。また、授業内容についても、「子どもの指導事例など、実際的な内容を取り入れてほしい」との意見が複数あった。

5. 授業の評価と課題

授業評価アンケートの結果に見られるように、本年度の授業で工夫したグループ討議については、学生の評価が高く、授業者として授業方法を工夫したことが報われたとの思いを持った。その一方、自由記述回答で指摘されたパワーポイント説明資料のレイアウトにはさらに工夫が必要である。また、受講者が望む「指導事例等の実践的内容の取り入れに」についても、次年度の授業を計画する上で検討すべき課題である。